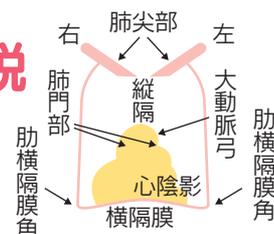




胸部検診レントゲン所見の解説

胸の検診結果についてご理解いただくために図解します。



胸膜肥厚・硬化像	過去の炎症(肺炎、結核など)で生じた痕跡で肺尖部に多い所見です。
～状陰影	各種肺の病変がレントゲン上で様々な影となって見える状態です。
結節影	3cm未満の丸い陰影です。
腫瘤影	3cm以上の丸い陰影です。
浸潤像	がんや肺炎などによる炎症で、組織が侵された状態です。
縦隔異常	縦隔(左右の肺と胸骨・背骨に囲まれた部分)の異常です。腫瘍があると部分的に拡大することがあります。
肋横隔膜角鈍角化	本来は肋骨と横隔膜外側の角度は鋭角ですが、丸みを帯びている状態です。胸膜癒着や胸水、肺気腫などでみられます。
シルエットサイン	正常構造のシルエット(輪郭)が消えてしまう現象です。肺が縮んだり、水が溜まることで、隣接臓器間の区別がつかない状態になります。
ブラ	肺の組織(間質)が破壊されて袋状(シャボン玉様)になった状態です。気胸の原因となります。喫煙者では、肺の傷んだ状態を示し、呼吸機能低下の原因となります。
リンパ節腫大	原発性(悪性リンパ腫、サルコイドーシスなど)と二次性(炎症、がんの転移など)があり、CT等による確認が必要です。
心陰影拡大	心胸郭比50%以上の場合を言います。肥満の場合には、心臓が腹圧で押し上げられ横位になるため、実際の大きさ以上に拡大して見えます。
大動脈蛇行	一般的には動脈硬化病変の表れで、動脈が延長して曲がった状態です。主として下行大動脈に生じます。
大動脈石灰化	一般的には動脈硬化病変の表れで、動脈壁の一部が石のように固くなった状態です。
大動脈弓突出	一般的には動脈硬化病変の表れで、弓部の大動脈が拡張している状態です。